

筑波大学附属病院外科：キャリア形成プログラム（修学生医師向け）

<特徴>

「伝統校」「名門校」の称号よりも、新しい、開かれた「先端校」「先進校」の理念を選んだ筑波大学の「Imagine the future」のスローガンの元、グローバル社会に開かれた環境で行われる「未来へのフロントランナー」としての外科医の養成を目指します。
年間12000件を超える豊富な症例数を誇る病院群を形成し、規定数をはるかに超える多くの症例の経験を提供します。
「研修医は黙ってみている」といった以前の権威主義的な外科教育は微塵もなく、専攻医を中心に据えた外科臨床を行っています。

<研修例> ※あくまで例であって、個別に相談して決定します

外科専門医資格を取得するまでの3年（または4年）の内、1年6ヶ月は基幹病院である筑波大学附属病院外科で研修を行う。
専門以外の規定症例クレジットを担保する為に、他科のローテーションを6ヶ月まで認める。
大学院進学は、外科専門医取得後早期と、サブスペシャルティ外科専門医取得後の2つのタイミングで選択する事が出来る。
早期に大学院に進学した場合、その後サブスペシャルティ外科専門医資格を取得する臨床研修を行う。

(1) 地域枠(義務年限9年間)

基幹病院 Ba
A群病院群(医師不足地域内病院)
B群病院群(医師不足地域外病院)
C群病院群(県外・海外病院)

茨城県内(A、B 筑波大)で9年の義務 そのうち4.5年は医師不足地域(A群)で研修、県外または海外での研修期間 大学院進学時は猶予期間となる

	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目	9年目	
ケース1-1	臨床研修(医師不足地域内2年)	Ba	A(6ヵ月)	A	A	Ba	BまたはBa	BまたはBa	BまたはBa	医師不足地域での研修を早期に終える場合
						(外科専門医取得)	(Subspecialty専門医取得)	(義務年限修了)		
ケース1-2	臨床研修(医師不足地域内2年)	A(6ヵ月)	Ba	Ba	C	A	BまたはBa	A	BまたはBa	5-6年目に猶予期間を活用し県外での研修を行う場合
				(外科専門医取得)	認定専門研修(猶予)	(Subspecialty専門医取得)	(義務年限修了)			
ケース2-1	臨床研修(医師不足地域内1年・ 医師不足地域外1年)	Ba	A(6ヵ月)	Ba	A	大学院	A	BまたはBa	A	外科専門医取得後大学院(4年)に進学する場合
						(外科専門医取得)	(Subspecialty専門医取得)	(義務年限修了)		
					認定専門研修(猶予)					
ケース2-2	臨床研修(医師不足地域内1年・ 医師不足地域外1年)	A(6ヵ月)	Ba	A	Ba	A	BまたはBa	A	BまたはBa	医師不足地域と医師不足地域外での研修を交互に行う場合
						(外科専門医取得)	(Subspecialty専門医取得)	(義務年限修了)		
ケース3-1	臨床研修(医師不足地域外2年)	Ba	A(6ヵ月)	Ba	A	A	A	BまたはBa	A	基幹施設での研修の後 医師不足地域での研修を行う場合
						(外科専門医取得)	(Subspecialty専門医取得)	(義務年限修了)		
ケース3-2	臨床研修(医師不足地域外2年)	A(6ヵ月)	Ba	Ba	C	A	A	A	BまたはBa	基幹施設での研修後県外等で研修を3年行う場合
				(外科専門医取得)	(Subspecialty専門医取得)	(義務年限修了)				

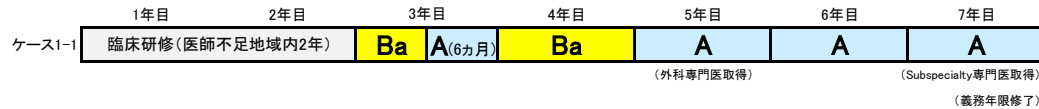
*県外または海外での研修の場合 3年を目安に猶予期間とできる

*大学院進学の場合はその期間を猶予期間とできる

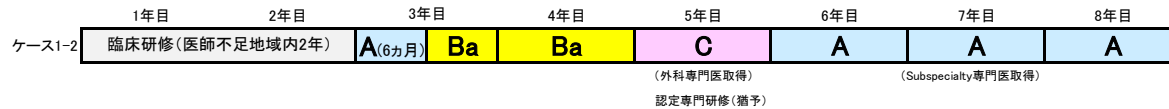
(2)一般修学(義務年限6年間)

基幹病院 Ba
A群病院群(医師不足地域内病院)
B群病院群(医師不足地域外病院)
C群病院群(県外・海外病院)

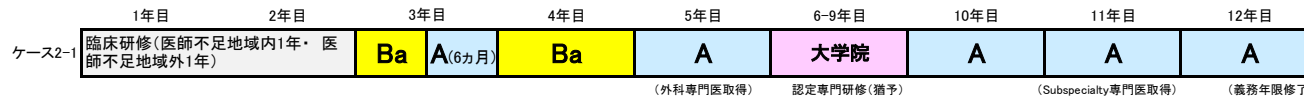
茨城県内医師不足地域(A群)での研修 6年の義務
 県内医師不足地域外(B群)での研修1年は義務機関に参入可(1年以内)
 県外または海外での研修期間 大学院進学時は猶予期間
 最終年は6か月で義務年限終了とできる



筑波大での研修1年分を義務期間に算入



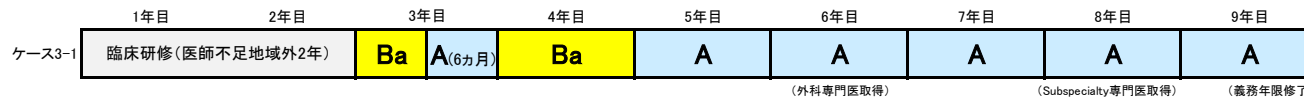
5年目に猶予期間を活用し県外での研修を行う場合



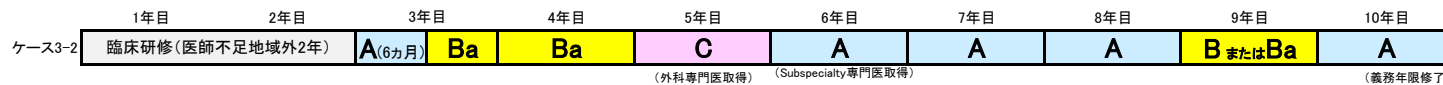
外科専門医取得後大学院(4年)に進学する場合



医師不足地域と医師不足地域外での研修を交互に行う場合



基幹施設での研修の後 医師不足地域での研修を行う場合



基幹施設での研修後県外等で研修を1年行う場合

- *県外または海外での研修の場合 1年を目安に猶予期間とできる
- *大学院進学の場合はその期間を猶予期間とできる
- *県内医師不足地域外での研修は1年を義務期間に算入可

【消化器外科専門研修研修病院群】

基幹病院 Ba	筑波大学附属病院
A群病院群(医師不足地域内病院)	日製ひたちなか総合病院、日製日立総合病院、水戸協同病院、茨城県立中央病院、国立水戸医療センター、水戸済生会総合病院、水戸赤十字病院、水戸中央病院、友愛記念病院、西南医療センター病院、高萩協同病院、総合守谷第一病院、つくばセントラル病院、龍ヶ崎済生会病院など
B群病院群(医師不足地域外病院)	国立霞ヶ浦医療センター、筑波学園病院、筑波メディカルセンター、筑波記念病院など
C群病院群(県外・海外病院)	国立がん研究センター東病院、聖隷佐倉市民病院、埼玉県立がんセンターなど

【心臓血管外科専門研修研修病院群】

基幹病院 Ba	筑波大学附属病院
A群病院群(医師不足地域内病院)	日製日立総合病院、茨城県立中央病院、国立水戸医療センター、茨城県立こども病院、水戸済生会総合病院など
B群病院群(医師不足地域外病院)	筑波メディカルセンターなど
C群病院群(県外・海外病院)	東京都立小児総合医療センター、心臓病センター榊原病院、長野県立こども病院、関西医科大学、杏林大学など

【呼吸器外科専門研修研修病院群】

基幹病院 Ba	筑波大学附属病院
A群病院群(医師不足地域内病院)	日製日立総合病院、茨城東病院、日製ひたちなか総合病院、茨城県立中央病院、水戸協同病院、国立水戸医療センター、水戸済生会総合病院、西南医療センター病院など
B群病院群(医師不足地域外病院)	土浦協同病院、筑波メディカルセンター、筑波記念病院など
C群病院群(県外・海外病院)	自治医科大学病院・がん研有明病院など

【小児外科専門研修研修病院群】

基幹病院 Ba	筑波大学附属病院
A群病院群(医師不足地域内病院)	茨城県立こども病院、茨城県立中央病院、JAとりで総合医療センターなど
B群病院群(医師不足地域外病院)	土浦協同病院など
C群病院群(県外・海外病院)	埼玉県立小児医療センター、竹田総合病院など

【乳腺甲状腺内分泌外科専門研修研修病院群】

基幹病院 Ba	筑波大学附属病院
A群病院群(医師不足地域内病院)	日製ひたちなか総合病院、日製日立総合病院、水戸協同病院、茨城県立中央病院、国立水戸医療センター、水戸済生会総合病院、水戸赤十字病院、友愛記念病院、西南医療センター病院、つくばセントラル病院など
B群病院群(医師不足地域外病院)	筑波学園病院、筑波メディカルセンターなど
C群病院群(県外・海外病院)	埼玉県立小児医療センター、竹田総合病院など